

第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会 第4回議事録

日 時 平成23年6月10日（金） 午後6時～8時
場 所 武蔵野市役所 413会議室
出席者 朝岡委員、江上委員、島森委員、平委員、井波委員、増田委員、
大杉委員（名簿順、敬称略）
事務局（市民協働推進課：森安、江波戸、大橋、志賀）
欠席者 なし
傍聴者 なし

< 次第 >

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 各協議会の個表について
 - (2) 報告書の構成について
 - (3) 意見交換
- 3 その他
- 4 閉会

< 配布資料 >

- 資料1 自己点検・評価表の推移（平成17～22年度）
資料2 個表のたたき台
資料3 報告書構成案

< 議事録 >

1 開会

【委員長】 きょうは皆さん、おそろいですね。どうも遅くなりましてすみませんでした。では4回目の評価委員会を始めたいと思います。

事務局とは何の打ち合わせもしていないのですが、まず開会というところを今終えたことにして、早速議事に入りたいと思います。

2 議事

(1) 各協議会の個表について

【委員長】 きょうは事前にお送りいただいた個表の検討をするというのが一番大きな課題かと思っています。前回欠席の方が多かったので、恐れ入りますが前回の概要を、一応流れをつかんでいただくために、事務局からお願いします。

【事務局】 前回は4月28日に開催しました。大変日程調整が困難で、4人の委員の方しかご出席いただけませんでした。その中で、それまでの間の経緯についておさらいをして、その後で報告いたしました。

すべての協議会について、自己点検・評価結果等に基づいて、事務局が2月にヒアリングを行いました。全協議会について、ヒアリング結果を1枚の紙にして、内容を報告いたしました。

その内容についてやりとりを行い、さらにはこれをどういうふうに評価の形で取りまとめるのかという議論になり、きょうお示ししている個表の形にしてまとめ上げていこうと。その際に、評価軸として幾つか既に提示していましたが、その中に協議会が認識をしている活動していく上での課題、この項目を必ず入れましょうというご指摘をいただき、それを個表に盛り込む格好にしました。その結果がきょうお配りした個表で、自己点検・評価表、ヒアリング、利用者アンケート、利用状況とか利用実績などをトータルに材料として把握し、その中からそれぞれの協議会について特徴的な部分を抜き出して取りまとめました。

【委員長】 ありがとうございます。今回資料1として、事前に委員にお送りいただいています。平成17年からの自己点検・評価表、今回は平成22年度をつけたもので、この評価のぶれなどをもとに、各協議会にヒアリングをしてもらいました。その結果の報告が前回です。さらにそれを各協議会の評価としてまとめるとこうなるのではないかというのが、きょう用意していただいている個表ということになると思います。

これまでの自己点検・評価や事務局が行ったヒアリングその他のデータに、場合によっては立ち戻って考えることも必要になるかもしれませんが、きよ

うはまずこの個表を検討していくことになると思います。そこまでよろしいでしょうか。そういう手続でここまで進んできました。

ではこの個表の中身について、事務局から説明していただきます。

【事務局】 前回の評価委員会の際に、この個表についても1週間ぐらい前には皆さんにお送りできればと申し上げましたが、結果として1日前になり、大変申しわけありません。お目通しいただいていると思いますので、要約という形で簡単に説明させていただきます。

まず吉祥寺東コミュニティ協議会から、東から順番にという格好で閉じています。点検項目は、運営の工夫、利用者の満足度の向上、適正な運営がされているか、施設・設備の管理が適正に行われているか、先ほど申し上げた協議会が活動の中で認識している課題について、そしてその他という格好で挙げています。利用状況や利用実績は、第1回の各協議会、コミュニティセンターの利用状況はどうなっていますかという話、それから利用者アンケートも既にお配りしていますが、その中から特徴的なものを拾い上げました。

<吉祥寺東コミュニティ協議会>

特徴的に言えるのは、地域の課題を積極的に取り上げて活動していることです。それから運営委員の自発性を大変重視しています。広報も独自の工夫をしまして、広報誌は年4回出していて、町のかかなり細かい情報が手に取るようにわかるもので、地域の方々から好評です。広報誌だけではなく掲示板を設置して、目に見える形での掲示板ですので、かなり効果があるのではないかと考えています。

ここに書いていないのですが、今回の震災の際にも、FM放送、ホームページ上での情報提供も地域の皆さんには大変、即効性ではあったんですが、紙として残る掲示板のような広報もすごく役に立つということを、この間も市民の方が集まって行った会議でも話がありましたので、そういったことも重要なのかなという気がしています。

本宿コミセンと補完しながら事業を行っていること、施設は16コミセンの中でも小さいほうから一、二番目ですが、その小ささを逆にうまく使っているという話がありました。

協議会の中で認識をしている課題ですが、先ほども地域の課題を積極的に取り上げているということで、確かにそれは協議会の特色ではあるんですが、かえってそのことが敷居を高くしているのではないかと認識をしている。難しいことをやっていると思われているのではないかと。それで若返りプロジェクトというのをつくり、今後若い人たちが気軽に入ってこられるようなことをしていきたいとのことです。

利用率は、部屋の数も少ないんですが、高いものを維持しています。

<本宿コミュニティ協議会>

地域の要望を取り入れた新しいイベント、とりわけ子ども対象のイベントを実施したことに伴い、今まであまり見えていなかった方が新たに来るようになりました。これは前回もお話ししましたが、第一期、第二期の評価委員会で子ども関連のイベント、事業を行ったらどうですかという指摘があり、それを踏まえてやっています。それから広報誌を見直して、地域の課題や話題を紹介するようになり、それに伴い来館者が増えました。とりわけ地域の課題として下水道対策やマンション問題などがあり、取り上げるようになりました。それから学校がすぐ隣にありますので、他団体といたしても学校関連の団体が多いんですが、あそべえの運営委員会、青少協、PTA、地域福祉の会と積極的に連携を図っています。

協議会が活動の中で認識している課題は、新しい人材による新鮮な発想、地域のニーズに沿った運用を心がけていますが、協力員が増えないので気軽に参加できる体制が必要だと感じています。それから発想の転換をしながら地域住民との温かい交流を目指し、来館したことがない人へのきっかけづくりを図ることが、具体化するまでは行っていないと思います。

コミセンの主催・共催事業に参加している人は5割弱で、これは全体的には二、三割というところが多いので、5割弱の方が参加されているというのはわりと高い比率を確保していると思います。

<吉祥寺南コミュニティ協議会>

1番の運営の工夫ですが、常に改革意欲を持っていて、いろいろな地域の課題に対応するような取り組みをしています。地域通貨を発行したり、コミセンのニュースも毎月発行したりしています。コミセンとしてのニュースと、それ以外にもごみの減量に関するもの、特集、子育て関連のニュースを出していますので、PR効果は大変高いのではないかとのこと。それから小学校との提携が大変進んでいます。活動にも大変活発に取り組み、なおかつ改革していて、広報も充実していて、防災関係にも大変熱心に取り組んでいます。前回も報告いたしましたが、3.11の帰宅困難者の方々に対する対応を自発的に行ったことは、全市的にも高く評価されています。

課題ですが、これだけ広報も充実していて、なおかつ改革も進めていますが、世代交代、若返り、先細りについて懸念を感じています。あと、利用者の方のマナーが問題という話がありました。杉並区、三鷹市と隣接していて、市外の方々が大変多く使われるため、その際に名前貸しなどで複数の利用をするなど、そういったマナーの悪さみたいなことがあります。

<御殿山コミュニティ協議会>

一番問題点として自覚しているのは、コミセンの認知度、関心度が低いこ

とです。いろいろな形でのPRには努めているが、なかなか功を奏していない。ただ、地域のさまざまな団体、日赤奉仕団や町内会などとの連携は、大変よくできています。

適正な運営についても、できるだけ簡略を図ってきています。

課題は、先ほど申し上げましたけれども認知度、関心度が低いことですので、やはりPRの仕方の工夫が必要になるのではないかと考えています。

コミセンの主催・共催事業へ参加したことがある人は25%ということで、これが大変低い。多分認知度が低いことの反映かもしれません。

<本町コミュニティセンター協議会>

運営の工夫は、1階を入れてすぐにサロンがあり、そこを活用したイベントをこのところ実施しています。外を歩いている方も大変多いので、外から中が見え、中で少人数が集まりイベントをしているのを見て気軽に入れるような配慮をしています。建物は3階建てですが、エレベーターがなくてハード面としては結構ハンデがあります。大きな事業ではなくて身近に感じられるような小さなイベントを行い、新規利用者を開拓しています。とりわけイベントのやり方も、市報に載せて全市的に市民の方に来てもらうのではなく、あえて市報に載せず、地域のマンションにチラシを配りご近所の方に集まってもらう工夫をしています。商店街のど真ん中にありますが、マイナス面としてそのまま放置するのではなく、顔見知りができるだけつくれるような配慮をしていて、その成果がかなり出てきたのではないかとのことです。

活動の中での課題は、動ける人材が不足をしている、特に3階建ての建物でエレベーターがなくて、物の運搬など力仕事ができる方が少ないという課題があります。

<吉祥寺西コミュニティ協議会>

運営委員会での意見交換は活発ですが、出席率は5割程度、運営委員会の出席者が固定化していることが、運営上の課題になっています。地域の中で団体同士の交流をするに当たり、協議会がコーディネーター的な役割を担っています。コミセンの近くに泉幼稚園というのがあったんですが廃園になり、その後の利用をどうするかということについていろいろな意見交換をしていて、そのコーディネーター役を協議会が担っています。さらには福祉の会との共同も進んでいて、地域社協の定例会にも出席をしているので、そういう意味では地域の中でいろいろな活動団体との連携はできているのではないかとのことです。

適正な運営では、利用者に対し、誠意ある態度が不足しているケースもあったということで、その後その部分が改善されているかについて特段のヒアリングはできていませんが、こういった課題を認識しています。

施設・設備の管理に当たり、問題が発生した場合には窓口会議で取り上げて問題を共有していますので、先ほどの窓口での対応が悪かったようなことも共有はされていますが、具体的な改善の内容については聞き取れていません。AEDの訓練や避難訓練も実施しています。ただ、こちらも課題としては若い世代の積極的な参加が少ない。大学生、高校生の取り込みも必要なのではないかとのことです。

その他では、茶室の利用率が低い。特定の目的を持った部屋ですが、その利用率が低いとのことです。主催・共催事業への参加は4割程度です。

<吉祥寺北コミュニティ協議会>

運営委員が25名程度で、大型館にしては運営委員が少ないんですが、全員で運営し、運営委員会にもほぼ全員が参加しています。窓口の担当も全員で分担し、一部の人に負担がかからないような配慮をしています。

新たな事業として「北町さわやかまつり」というのを地域の団体が集まり5月に開催していて、それがかなり根づいてきて団体同士の交流がしっかりできるようになってきたかなとのことです。それからコミセンの特徴でもある1階に広いロビーがあり、そこを使ったコンサートやいろいろな活動が、来館者を増やすのに役立っているのではないかとのことです。

運営に当たっても、窓口対応はできるだけ個人差が出ないように、しっかりと話し合っただけルールを共有するようにしています。

協議会の課題として認識しているのは、少ない人数で今は回せていますが、徐々に高齢化してきているので、いずれ窓口の体制をとるのが厳しくなる時期が来るのではないだろうかとのことで、定年制があるために窓口担当者、運営委員が減っていくので、そういった方の勧誘を続け、若い方が入れるようなイベントなどを実施していきたいとのことです。

主催事業に参加したことがある利用者は42%程度です。

<けやきコミュニティ協議会>

運営の工夫としては、できる範囲で、運営委員は無理をしない範囲で参加するという基本的なスタンスがあります。それから、まちづくり関連のNPOや近隣のコミュニティ協議会との共同事業、地域の中での子どもはかなり大きなイベントであるミニタウンなどへの支援、そういうものをしっかりと行って、地域のインキュベーター的な存在だということを自負しています。ここで少し気になりましたのが、コミセンを利用している利用者同士のつながりが強くない、その下には活動のネットワークが十分でないということですので、自分たちが自負をしていることとその結果が若干の矛盾、そのとおりには実行できていないという課題があるのかなと思います。

課題としての認識は、これは私のほうでの指摘ですが、そういったインキ

ュベーター的な存在でもネットワークは十分ではないということがあるのかもしれませんが、協議会としての課題の認識で具体的なものはさほどありません。だれでもできる範囲で参加をして、皆さんが主体的に担っていく取り組みをしています。発言をする人が固定化してきていることに対しては懸念を持っています。

主催・共催事業への参加は4割ですので、これも平均的だと思います。

<中央コミュニティ協議会>

運営上の工夫では、利用者懇談会に70名から80名の方が参加をしています。かなり活発な意見交換をしていて、そこで検討した結果をホームページで公開して、発言を聞き放しではなく、ちゃんと皆さんに返す取り組みを行っています。それから、文化祭で地域のほかの団体との連携を図るようになってきました。施設の予約についても、いろいろと住民の方からご要望があり検討していますが、最終的には利用者の方の強い意見に応じて対応しています。それなりの工夫としては、若い方、中高生に利用してもらいたいので、月1回中高生向けの卓球台の自由開放などを行っています。

運営委員全員で議論することをしっかり定着させていて、実施しています。中央コミセンという大型館と中町集会所という小型館の2つの建物を運営していますが、そのわりには運営委員がすこし少ないという実態があり、その確保に苦慮しています。そういった状況ですので、一人一人の運営委員の事業実施に当たっての負担が大きくなっていますので、事業の数を減らすことを積極的に取り組んでいます。

利用者のうちコミセンの主催・共催事業に参加したことがある人が65%ですので、これは大変高いと思います。

<西久保コミュニティ協議会>

最初に「課題があった場合の検討の場が不十分であった」と書いてあり、今まではそういったことがあったのかなど。何か問題が起きたときに皆さんで議論をするということが不十分だったと思っています。新しい取り組みとして、「夏まつり」というのを地域の方と一緒に始め、これに大変多くの方が参加をされて、地域とのつながりが強くなったとのこと。それから地元の商店会や老人クラブとの協力もしっかりとできていますが、やはり若い人の力がなかなか入ってこないという自覚をしています。

協議会の認識している課題ですが、西久保地域の中に学校が一切ないので、学校との連携は課題ではないかと思っています。それから事業実施に関して、運営委員個々の負担が増えていると自覚していて、行事の中身などの見直しが必要だと考えています。それから「より自由に発言できる運営委員会」とありますので、そこで自由な発言が出てきにくいとっていて、課題として

認識をしています。

先ほど小中学校との連携が課題と申し上げましたが、子どもたちの利用は極めて高いという特徴もあります。

<緑町コミュニティ協議会>

クリーンセンターのすぐそばにあり、自分たちも自負をしていますが、エコやクリーンということをテーマにしている、地域の方からも認識されているのではないかとのことです。それから運営委員と協力員でコミセンを運用していて、できる範囲で協力員に手伝ってもらっているのも、あまり無理をしないで参加してほしいとお願いしています。それからコミセンの大掃除の際には、日ごろコミセンを利用している方が率先して参加をしています。地域の団体との連携もしっかりしていて、とりわけ大きいのが緑懇話会という町会、団地の自治会、商店会、老人クラブなどと連携しながら、地域の課題について話し合っています。それから文化祭については、地域に保育園とシルバーピアがあり、そこの方々が出展をされていて、お年寄りの方々の生きがいの場になっているのではないかと自覚しています。それから1階ホールは自由来所で使える部屋ですが、そこを半分に区切って予約で使えるようにしたところ、2階に上がるのが困難なお年寄りなどがそこを使うことが多くなり、大変好評です。

協議会が課題として認識しているものは、やはり若い世代の方が入ってこないということです。

主催・共催事業に参加している人は、利用者の中の42%です。

<八幡町コミュニティ協議会>

若干ですが運営委員が減っています。地域の団体との連携や共催などが不十分かなと感じています。また、今新しいコミセンの建てかえのための準備を進めていますが、現行の建物が大変狭くて、バリアも結構多い建物ですので、そういったことについての対応をソフト面でしています。それから全体的に運営委員会等での発言が少なかったりして、活発に活動できていないような感じはありますが、新八幡町コミセンの建設準備委員会というものを立ち上げて、その中にいろいろな団体の方が参加したり、自分たちにとってもやはり新しいコミセンが建つというのはモチベーションが引き上げられることですので、全体的には意欲が上がってきているのではないかとのことです。また、運営委員会等に欠席者が多いとのことです。

活動の中で認識している課題は、やはり役員が増えないこと、運営委員の達成感、やりがい十分に共有化されていないということで、大きな課題として認識しています。

コミセンの主催・共催事業に参加している人は39%ですので、若干低い

かなと思います。

<関前コミュニティ協議会>

子どもの利用が大変多い。これは行くとすぐわかるんですが、1階のロビーにはいつも子どもがたくさん集まっています。それから高齢者の利用も多い。ムーバスの待ち時間などにもさっと入ってこられるとのことですので、気楽に入りやすい環境にあるのかなと思います。それからあいさつ運動を実施していて、窓口にお客さんが見えになったら必ず声をかけています。それからすぐ隣が関前南小学校で、その子どもたちと一緒に学校の周囲ですれ違ったら必ずあいさつをしようというあいさつ運動みたいなことも、小学校と一緒に取り組んでいます。

窓口担当者会議の回数を増やしています。今は2カ月に1回実施し、課題などを共有化し合って、みんなで窓口の対応をよくしようとしていて、明らかに対応がよくなっているのではないかとのことです。

課題としては、運営委員の不足、やはり一部の運営委員に負担になっているのではないかと、そこを何とかしたいとのこと。あとは若い世代への広報をして、若い世代を取り込みたいということは課題として感じています。

特筆すべきこととして、利用者のうちコミセンの主催事業等に参加している人が51%と、大変高くなっています。

<西部コミュニティ協議会>

一番特徴的だったのは、運営委員や役員の入れかわりがここに来て大きく行われていて、5年分の振りかえりをしようにも5年前にいなかった人がほとんどでした。ただ、新しい役員体制になり、地域への呼びかけを活発に行ったり、従来まいていた広報誌の配布数を倍にするといったことを行い、引越してきた方の来館、問い合わせなどが大変多くなりました。

積極的に新しい取り組みを行っていますが、協議会の課題としては、運営委員会への出席率が低く、活動が役員と一部の運営委員のみの負担になっている傾向があると自覚しています。新しいことは始めているが、みんなで一緒にやっという形になり切れていないのではないかとのことです。

コミセンの主催・共催事業への参加率は49%で、比較的高いものがあるかなと思います。

<境南コミュニティ協議会>

第1号のコミュニティセンターで、特別ここが他と違っているところは、運営委員が地域代表と団体代表という充て職のような格好で出されています。それプラスここ数年で規約を見直して、自由枠で入れる、自分からぜひ参加したいという形でコミセンに参加する方を10名までは確保しているということで、できるだけ多くの方に参加してもらえるようにしました。その中で、

団体から入ってくる方の中に若い方がいて、学童の父母の方ですが、そういった若い方の意見などを率直にそのまま取り入れるようにしていて、活動も活発になってきているのではないかと評価しています。

課題として認識しているのは、境南町は公共施設が少ないので、コミセンの認知度は多分高いだろうと自覚していますが、利用していない方がかなりの数いますので、そういった方々の声をどのように反映するのかということに苦心されています。

コミセンの主催・共催事業に参加をしている人が利用者の中で62%いますので、率は大変高いと思います。

<桜堤コミュニティ協議会>

運営委員会への参加の率が大変高い。毎回9割の参加があり、活発な意見交換が行われています。決して運営委員の人数が多いわけではないんですが、和気あいあいとしている協議会かなと感じます。それから夏まつりを前の公園で地域の団体と連携してやっていて、900名の方が集まります。桜堤のあの狭い公園がいっぱいになるので大変やりがいも感じていて、いい取り組みなのではないかと思っています。建物も狭くてバリアフリーにもなっていませんが、狭い中でも一生懸命いろいろな工夫をしていて、利用できない方のために、和室を畳として使うのではなく洋室のように使うようなことで、できるだけお年寄りの方でも楽に使えるような工夫をしています。

協議会の中で認識している課題は、地域住民の意見を聞く機会を増やす工夫を重ねたいと思っていることです。利用者懇談会は年1回ですが、もう少しそれを充実させていきたい。それから先ほどの境南コミセンと一緒にですが、コミセンに来ていない人の声をどのように聞くのかということも課題として考えています。

こちらも地域にかなり浸透していることだと思いますが、コミセンの主催・共催事業に利用者の65%の方が参加をしています。これは多分一番高いのではないかと思います。そういったことで自信を持っている感じです。

総じて16協議会について見てきましたが、やはり課題としてすごく認識しているのは、運営委員のなり手が少ない、高齢化している、若い人の参加が少ないと感じている、8割方の協議会で認識しているのかなと思います。

【委員長】 どうもありがとうございました。さて、一通り見ていただいたわけですが、この先どうしますか。まずは、一つ一つ見ていくという手もあるんですけども、拝見した感じでいうと、一つ一つやっていくというよりは、16協議会を一遍にというのは大変なので前半、後半ぐらいに分けて、中身の点検といいますか、ご意見をいただくのがいいかと思っています。

ただし、事前にご相談したいのは、この内容にどこまで踏み込むかという

ことだと思えます。例えば吉祥寺東コミュニティ協議会についてはこう書いてあるけど、そうは思わないという意見がここで出た場合、それをどう扱うかということです。あるいはそういう見方はしない、ここに書いてもらったものが、これまで私たちが考えてきたやり方でやったある種の結論なので、その中身を大きく修正するようなやり方はとらないという考え方もあるし、やっぱりあそこのコミセンは自分が見ていてこうは思わないというご意見をお持ちの方もいるかもしれない。その判断をあらかじめ決めておかないと、少し混乱してしまうかなと思うんです。あるコミセンについてはここでいろいろ意見が出て、新しい内容を入れたり、あるいは書いてもらったものを削ったりということをするけれども、あるところはしないみたいなことになると扱いが違ってきてしまうので、その辺を事前に打ち合わせておいて、どういうふうに中身の議論をするか。

私としては、事務局に自己点検・評価などを参考にしてヒアリングをしてもらったということの意味を、もう一度確認しておかなければいけないと思います。ちゃんと覚えていないんですけど、ある種の客観性を担保するということが目的だったと思います。協議会の方々はどういうふうに考えているということ、客観性を担保しながら文字にしたのがこの中身だと思うので、字句の訂正とかわかりにくいからこんなふうに変えたほうがいいのかというのはあるかもしれませんが、あまり中身をいじるということはこの委員会ではやらないほうが良いと思います。副委員長のご意見はいかがでしょうか。もちろん皆さんのご意見も伺います。

【副委員長】 ちょっと間があきましたので、どういう議論だったか思い出せない部分もあるんですけども、このコミュニティ評価委員会のミッションという役割をどういうふうに考えるかということだと思えます。コミュニティ条例を改めて拝見したとき、第15条に、コミュニティ評価委員会は公共的団体のコミュニティづくりについて評価すると。つまり財政的援助を受けた、だからそういうコミュニティづくりが進むようにするというのが我々の評価のポイントであって。

最初のころ議論したような記憶があるんだけど、指定管理者制度が入っていることによって、シビアに一つ一つの協議会について評価しようとする、要するに指定管理事業者としてちゃんとやっているかという評価になるわけです。もちろんそれは排除しないまでも、コミュニティ評価委員会の仕事は、指定管理者を評価することではないだろうと。それは行政の側で、適切に運営されているかどうか、契約に基づいてやられているかどうかということ、それは個々にやらざるを得ない。契約の更新の問題がありますから。

そういう意味で、結論から言うと委員長と同じになると思うんですけど

も、あんまり個々のコミュニティ協議会の自己評価をいじらない。当事者が自分で評価して、こういう課題があると認識している、これはこれで事実として見ておこうと。しかも事務局にヒアリングをしてもらっているわけで、これはそういうものとして尊重するものだと思います。

その上で、これは報告書のつくり方とも関係すると思いますが、考えておいたほうがいいのは、先ほどから話をしているように個々のコミュニティ協議会について評価するのではなく、むしろコミュニティセンターという制度、あるいは協議会という制度そのものがうまく機能するためには何が必要なかということ、ここから抽出していくような、そういう評価の仕方がいいのではないか。先ほど事務局より説明してもらったときに、どこでも運営委員が高齢化していて、なり手がなくて、負担が多くて、若い人を取り込みたいと思っていると。これは一つ一つの協議会の問題というよりはコミセンの問題、全体としてこの制度そのものをもう少し見直していかなければいけない、そういう課題なんですよ。そのために我々が何を行政としてすべきかということ積極的に提言したり、提案したりしていく、そういうスタンスでいいような気がします。

形式上、協議会ごとに総評の欄があるので、それについては議論して何かコメントを入れたほうがいいと思うけれど、あまり一つ一つについて、いい悪いというのまで言いたくないという感じがします。そんな感じでどうでしょうか、ほかの委員にも。

【E委員】 きょうの個表は、今までいただいたヒアリング結果と利用者アンケート、それと自己点検、主にヒアリングとこれですよ。これを見まして、一番ぱっと気がついたのは、コミセン主催の行事への参加が低いというのが、トータルで見ても非常に目立ちます。それから団体の利用者が圧倒的に多いですね。あとは市外の方も、これはこれで地域性があるんだろうと思うんですけど。団体の利用者がこれだけ多くて、主催事業に参加する率が低いとなれば、実は今回の公募文を考えたときなんですよ。結局、目的が手段のところにとまっているような気がするんです。本来、武蔵野市が町内会とか、いわゆる昔で言う地縁が薄いと、これは武蔵野市だけではなくて都会一般そうなんですけれど、今回の東北地方を見るとやはりまだ地縁、血縁が深いんだなというのはつくづく感じました。血縁はしょうがないとして、地縁のきっかけをつくるのはできるけれども、実際の住民がお互い支え合って住みよいまちづくりは、コミュニティ協議会だけでできることではないなど。いかにコミュニティ協議会が、核という言葉がありますが、地域福祉の会、青少協であるとか、そういうところともっと密接に結びつかないと。本来コミュニティ協議会というのは、古いところだとでき上がって30年で

すが、何かその目的が、今の状態では十分果たされないのではないかなという懸念を、これを読んでいて、データとか見て感じました。

我々としては、個別に知っているコミセンとかもあるんですが、あまりそういうプライベートなものを入れるとややこしくなりますので、あくまでもこのヒアリングと、要するにこの今までのデータですね、私たちから直接とったものでないものをベースに考えていけばいいかなと。あまり私情とかを入れない方がいいかなとは思いますが。

【A委員】 私も半年ぶり、久しぶりに伺ったので、このコミュニティ評価委員会というのは実際何をすればいいのかなと、きのうずっと考えていました。先ほど副委員長がおっしゃったんですけれど、やはり市のお金、みんなの税金を使ってコミセンを運営しているから、それを全く丸投げしてしまうというのはやはりおかしなことで、5年ごととか数年おきに評価をしなければいけないというのは、そうだなと思います。ですから、シビアに評価しようとする指定管理者としてちゃんとやっているかどうかというふうになってしまうけれど、そうではなくて、やはりコミセンは地域ごとに特色みたいなものがあるので、個々の評価はせずに、コミセンという制度が機能するにはどうすればいいかというのを考えるというふうに、私も思います。

コミュニティはコミセンの中だけではなくて、例えば地域で、自分の家の身近なところでコミュニティができ上がっていれば、それはそれでよくて、何もみんながコミセンに来なくてもいいわけです。私はマンションに暮らしているんですけれども、そのマンションの中の管理組合というのも、一応何となくコミュニティ、管理組合をみんなでやっていくというコミュニティをつくっているんです。でも私のマンションは、高齢化に伴って役員になってもいいという人は15人ぐらいしかなくて、お金を出してでも役員になりたくないという人が30人以上いるんです。そんな小さなマンションの中でも人とつき合うのは煩わしいと考えている人が、倍以上いるということです。だから家からちょっと離れたコミセンにわざわざやってくるには、よほどそこが魅力的な場所であれば足が向かないと思います。

ちょっと前に、震災の影響などもあって、はとバスを利用する観光客が激減したとテレビで言っていて、苦肉の策で、都内をちょっと散歩する、いろいろな名所を回って、大学の先生を呼んできてうんちくを語ってもらおうという、そういうツアーが結構人気なんだそうです。不況の中にあっても、知的好奇心をくすぐられることは人が集まりやすいということが、わかったみたいなんです。コミセンで何かちょっと興味のあることをやってるなど思ったら、行きたくなるのではないかなと思います。例えば住民の人がすごく興味のあることがあって、みんなに教えたい、でも1人でやるのは寂しいから

何人か仲間を募って、どこか名所に散歩に行くなり、何かそういうことをしたいなと思ったときに、声をかけやすい場所というのがコミセンだったらいいかなと思ったので、その辺の提言ができるといいかなと思いました。

【委員長】 今のご指摘と、E委員が前半におっしゃったこととすごく関連するんですが、そういうイベントを、コミセンを会場に協議会が主催ですとやってきているわけ。ただ、そのあり方をどう考えていくかというあたりは、古くて新しい課題だろうと思います。

今のことも、やはりコミセン全体について少し提言していくことの重要な中身かなと思います。運営委員の問題とか、活動をどう盛り上げていくかということとか、そこに住民のニーズをどう取り入れるのかといったあたりでしょうか。

【E委員】 専門的なことで委員長とかに伺いたいんですが、例えば多いところで9割ぐらいが団体使用なんですね。そうするとそういう団体の人たちは仲間がいて、利用しているわけです。例えば趣味の会であり、一般的にはそういう会が多いよね。そういうのは地域コミュニティとは特に呼ばないんですかね。地域コミュニティという概念。

【委員長】 いや、団体そのものは地域コミュニティと言わないかもしれないけれども、その団体の中ではコミュニティ的な関係で結ばれているのではないですか。

それと団体利用が9割というのは、部屋の貸し出し枠に対して団体の利用が何%と、そういう計算ですよ。だからロビーを使っているとか、そういうのは入っていないわけです。ロビーで三々五々集まっているとか、そういう利用のされ方もあるから、貸し部屋部分は団体での利用が多い。これはある種、今のやり方でやっていけば当然になるわけで、団体利用が9割というのは「よく利用されている」という評価の仕方も多分あると。

【E委員】 そこではあるコミュニティができ上がってというか、あるということですよ。

【副委員長】 事務局のヒアリングで、きょうは出てきていないんですけど聞かれていたら教えてほしいんですけど、一般的にこういう地域の施設というのは、貸し館機能がある場合、E委員がおっしゃったようにいろいろな団体が常連化して入っている。しかも地域の団体とは限らずに、いろいろなところの部屋取りをして回る、場合によっては名前まで変えて、幾つものサークルの名称、看板を持ちながら使う。そういうことで、部屋の利用率が高いのはいいんだけど、実は意外と地域の人が利用しづらくなっているのではないかと、そういう問題は起こっていないんですか。

【事務局】 起こっています。具体例を挙げると申しわけないかもしれま

せんが、演劇をしている方々が、ほとんどのコミセンをぐるぐる回りながら練習しているという実態があります。どこのコミセンも団体の予約利用はおおむね月2回までとしています。ところがそういった方々が団体名を変えたりして3回、4回使っている、あるいは予約で2回使って、あいていればもう1回使えるというルールにしていますので、それでまた使うという方が多くて、一見さんというかふらっと来た方々はなかなか使えないというのが、実態としてはかなりあるように聞いています。そのことについての相談も受けたことがあります。

【副委員長】 これは武蔵野市の特徴なのかもしれませんが、歴史的には、要するに町内会を戦後復活させず、コミュニティセンターを中心としたコミュニティ協議会を設置している。住民の新しさとか、新しいコミュニティとかという性格はあるにしても、基本的に我々はコミセンの利用を評価するのか、自治会のかわりとして地域のまとめ役をやるコミュニティ協議会の評価をするのか、そこが非常にわかりにくくなっているところがあるんです。だからコミュニティセンターという施設の運営や利用の仕方がこれでいいのかという問題と、指定管理者になっているコミュニティ協議会が、コミュニティセンターを拠点にしなごうまく地域づくりを進める主体になっているかという評価、本当は別物なのに一体化してしまっている。そこをどういうふうに考えるのかということ、やはり分けたほうがいいのかという気がしています。

【事務局】 コミュニティづくりの活動というのは、あくまで自主的、自発的な活動で、こうあるべきだろうというのは多分ないと思います。ところが条例上は、そのコミュニティづくりについて評価をするということになっていますので、そこがすごく混乱を招いているのかもしれませんが。

ただ、密接不可分なところがあり、指定管理者として建物の管理運営をする、あるいはそこでいろいろな行事を行うことが、ストレートにコミュニティづくりに結びつくこともあります。ですから、そこは大変難しいところだと思います。単純に数字的に、あるいは制度的にちゃんと適正に運営されているかというところだけを見れば、簡単に終わってしまうんですが、見ざるを得ないところが出てきてしまうので、そこをどのように評価していくのかということなんです。

それから、事務局内でも今回この個表をつくるに当たって議論をしたんですが、やはり評価表として見たときに少し迫力に欠ける感じがします。例えば先ほどA委員からも、コミュニティセンターを使っていない方がこれをぱっと見たとき、「ああ、なるほどね。うん、そうだよ」というふうに納得するものになるかどうかというところが、少し課題としてあるのかなと思います。

す。また、前回委員会の委員長のお話の中で、これを見ることによって、コミセンを利用している方に対しての宣伝効果もあるのと同時に、コミュニティ協議会の方々に対する気づき、自分たちの課題の気づきとして当然これがありますので、その重みみたいなものもある程度つけなければいけない。武蔵野市全体をならしたコミュニティの課題を言っていただくのと同時に、それぞれの協議会に対しても、この部分は課題として認識しているけれどももう少し頑張ったほうがいいのか、みたいなどころも必要と感じています。

【委員長】 各コミセンの課題みたいなことをどこまで指摘するか、要するにこの中からピックアップすることになると思うんだけど、それは大事かなとは思っていて。大事なところは例えばゴシック体にするとか、簡単にそれぐらいのことでもいいかなと思います。

A委員からの説明責任という意味でいうと、これを市民が見て、コミセンというのはこの程度なのかと読むか、あるいは使っているお金に見合ったことをやってくれていると思うか、そういう資料になるわけです。ざっと拝見した感じでは、多少ひいき目があるかもしれませんが、こうやって並べてみると、コミセンは結構頑張ってやっているのではというのが、私の印象です。

【E委員】 これを全部読んで、自分で点数をつけたんです。一番上が5で、3が下というか普通です、要するに自主三原則の中でやっているの、それ以下のものを要求するのもおかしいし、下を3にして、0.5刻みで5まで、自分なりにつけてみました。ヒアリングの生の声と言いますか、あとは自分たちで書かれている自己評価表、それを見比べて点数をつけてみましたけれど、やっているなと感じます。特にどこがどう、大きな問題があるとは感じませんでした。

【委員長】 にもかかわらず、市民からの認知度が低い、利用率があまり上がってこないというあたり、その矛盾がどうして生じるのかという、大きい問題といえば大きい問題だと思います。

それから副委員長がおっしゃった、協議会の評価と、施設としてのコミセンの利用に関する評価というのをどう分けるか、あるいは分けられるかどうか。どうも難しいなと思うんだけど、どうしますか。

【副委員長】 多分分けることは厳密にはできないと思うんです。ただ、普通の指定管理者とは違った評価の視点を持たなければいけないのかもしれませんが。どういうことかという、極端な例え話ですけども、普通の事業者であれば施設としての貸し部屋の利用度が非常に高く、あき状態がほとんどないとか、講座を開くといつもたくさんの方が集まってくる、こういう見た目の数値化しやすいものが非常に高いと評価は高くなります。だけどコ

コミュニティ協議会が地域のコミュニティセンターを運営するときに、そういう視点で評価していいかという問題があります。つまり、さっき問題になったように、いくら施設がたくさん使われていても、地元の人たちが自分たちで問題を解決したり、学習したり活動したりする場としてうまく利用できないとすると、それはコミュニティづくりという視点からいうとうまくないという話になります。そうすると、それをどうやって評価するんだと。ここは工夫が必要です。

また講座やイベントにしても、たくさんお客さんが来ればいいのかというと、もちろん少ないよりは多いほうがいいんだけど、どういう人が来て、それが次にどういうふうにつながっているのかという質的な評価もしないといけません。おそらく施設の利用にしても、普通の指定管理者とは違った評価の視点をこちら側が持って、それに即してちゃんと評価してあげる。そのところを少し詰めたほうがいいだろうなど。

もう一つは、委員長がおっしゃったことを聞いていてそのとおりだなと思ったのは、コミュニティ協議会やコミセンという制度そのものが、ある意味でステップアップをしなければいけないような時期だとは思っています。制度や行政の支援、援助の仕方も何らかの形で見直しは必要だとは思いますが、一つ一つのコミセンに対して、課題を指摘して改善のポイントを示唆することも必要だろうと。ただ、それをやるときに、ある意味で我々は行政の側から言うことになるわけで、ここが問題でこうなさいというだけではだめなんです。つまり行政は何をするのか、そういう改善をするためにどういう新しい支援をするのかということとセットで言わないと、問題があることはわかっている、だけど何の支援もなしに言われても改善できないじゃないかと言われると、それで先に進まなくなってしまう。制度については何とかいじれるにしても、個々のコミセンの課題を指摘して、それについてこういう改善をなさいというふうに言うとする、それは言う側のほうでも、新しい支援の方法と一緒に提案しなければいけないという問題になってきます。そのところもやはり大事だと思うので、ぜひここで議論できたらいいのではないかなと思います。

【委員長】 今の最後の話は、極めて微妙なものを含んでいます。武蔵野市のコミュニティ行政の歴史の中で考えると。ただ、おっしゃるような問題意識はコミセンも行政も持っていて、両者の関係を、これまでのような金を出すけど口は出さない、とにかく自主運営ですというやり方でいいのかということを見直そうという機運が少し出てきている段階です。そこで、仮に言えたとして、行政はこういう支援があるのでこういうふうになさいというようなことを、評価委員会の文章の中に書き込めるかということ。

【副委員長】 誤解を受けるといけないので、あいまいな言い方をしたので逆の意味でとられるかなと思って、追加すると、武蔵野市がコミュニティ協議会に対して、あるいはコミセンに対して干渉しないで進めてきた、自主的に運営できるように進めてきたということは大事なことです。ただこのレベルでいいのか、つまり環境調査はもっと前向きに、積極的にやるべきではないかと思うんです。

前回の議事録を拝見していて、ミニ役所になっていいかというお話があったような気がします。ちょっと違う意味だとは思いますが、武蔵野市だからこそということになるのかもしれませんが、もっと踏み込んで、市役所に来なくてもいろいろなことについて、コミュニティを中心に住民が自己決定して、予算も持って、ある程度のことは自分たちで解決できるような仕組みを考えてもいいのではないかなという気がしているんです。つまりこれだけコミュニティの枠組みがある意味で定着して、しかも自主運営をして、指定管理まで受けていると。そうだともっと踏み込んで、もっといろいろな事業や予算の権限をコミュニティに移していくことによって、もっと自主運営の幅を広げるという意味なんです。

【委員長】 ということであれば、大賛成。はっきり言って、協議会が指定管理者の意味というのをまだ十分そしゃくし得ていないみたいなところがあります。本来ならば、もっと自主的に大胆なことができる。

【B委員】 今、第五期基本構想・長期計画でも、地域コミュニティのあり方というのが大きな課題になっています。今後大きくなる課題、地域にかかわる課題、そこにどういうふうに市がかかわっていくかみたいなことは、これからの課題、話し合われる端緒にあるのかなと思っています。そちらの動きも合わせて考えると、ここだけで何か新しい制度設計みたいなものを提案するのも、整合性がつかなくなる可能性もあるのかなと。

【委員長】 いや、私たちは別に整合性をつける必要はないと思うけれど。新しい制度を提案するところまで行くかどうかはわかりませんが、市役所の中を見回して、評価委員会として何かと合わせていく必要は別にないと思うので、ここはここで独自にやればよいと思います。

【B委員】 全然違う視点ですけども、これを読んでいて、けやきコミュニティ協議会では、委員がかかわるときに地域性とか地域の歴史とか、コミセンの成り立ちなどを次の世代に伝えていくのが非常に重要だと思っているので、新しい委員にはその辺の課題などを十分に話して、共有していくみたいなことが書かれていたと思います。前の委員会の提言書などを見ていて、その地域性みたいなものが出てると、そのコミセンを知らない方にもそのコミセンがどういう成り立ちだったかとか、どういう歴史を持っているの

かというのが少しかいま見えると、すごく身近に感じるんです。私も行ったことがないところもありますが、そういった地域性とか成り立ちなども少しでいいから書き込むと、そのコミセン以外の方にも身近な評価になるのではないかなと感じます。

【委員長】 ありがとうございます。比較的けやきは歴史を重視するというのがありますよね。

さて、どういうふうにやっていきたいと思いますか、まとめ切れないんですけども。きょう考えておかなければいけないことが幾つかあって、順不同で申し上げますが、まずは総評みたいなことを書かなければいけないわけです。その総評を書くということも含めて、評価委員会としての独自の視点といったようなものをどの辺に定めながら書けるかというのが一つ。

それから、そういう独自の視点から16コミセンを見渡したときに、武蔵野市のコミセンやこの協議会の制度全体について、今課題として挙げられることはどんなことだろうかという、全体のまとめの評価が必要ではないかということが一つです。

それをさらに、コミュニティ制度全体に関する提言と抱き合わせるような形で、市として、これから市民とどんな関係でそれを解決していけるんだろうかというようなところも、少し書けたらいいなど。報告書の最後のまとめみたいなことになるのかもしれませんが、そういうことができたらいいなというのが3つ目です。

とりあえず、今頭の中でまとめ切れたのはそこまでです。大事なことで落としていることがあるんじゃないかな。

(2) 報告書の構成について

【副委員長】 もし差し支えなければ報告書の構成案を見ながら、この報告書の構成案はここで議論したこととトーンが違うので、これをどういうふうに変えればいいのかという議論の仕方をしたほうが、もう少しまとめやすいかもしれません。

【委員長】 そうですね。そうすると、議事としてはまずは先に進んで、また少し戻るかもしれませんが、報告書の構成を考えていただいているので、それをまずは伺ってからにしましょうか。

報告書の構成案について、資料3はきょう初めて示されるものですよ。まずは、事務局がどう考えているかということをお伺いしたいと思います。

【事務局】 通常の報告書の構成案ということで、「はじめに」というのがまず冒頭にございまして、最初に本委員会の趣旨が来るものと思っています。その中に、この評価委員会の報告書を見たとき、コミュニティセンターがな

ぜあるのか、そしてコミュニティ協議会というのはどういうものなのかという定義を最初に確認しておかないと、この評価委員会の報告書の中身が理解されないかなとも思いますので、冒頭に持ってきています。武蔵野市における市民活動というものがどういうものかということと、あとは今の議論の中にもありましたとおり、指定管理者制度の導入のいきさつなどもこの中に盛り込みたいと思います。

評価の対象ですが、第2回の委員会の際に、コミュニティ条例の中で、評価ということが位置づけられていますので、あと委員の皆様の名簿を最初に持ってこようと思います。

2番目の評価方法ですが、こちらも第2回の委員会の際に、資料として評価の視点と基準、評価の構成についてご議論いただいていますので、そのとおり進めていましたので、この点については説明になるのかなと思います。

3番目の評価結果ですが、まずは全16協議会の総括、個々の今ごらんいただいている個表の前に、全体としてどのようなものだったかという総評があり、その後何を盛り込むかなんですが、現在の社会状況、コミュニティの希薄感が言われている中で、それぞれの協議会がどのような苦悩を抱えているのか、協議会の内部のことだけではなく、地域の住民の方からどう見られているかという社会状況も盛り込む必要があるのかなと思います。指定管理者制度ですが、平成17年度にコミュニティセンターにも導入いたしました。指定管理者制度の意義は、指定管理者の創意工夫によって住民サービス、地域住民の方の豊かな市民生活をどのようにしていくのかという視点がありますので、その指定管理者制度がコミュニティ協議会とどのように密接不可分であるかということ入れたいと思います。

その次ですが、個表は今ごらんいただいているものに総評を、総評という言葉でいかどうかというのがありますが、それを加えたものを載せたいと思います。

4点目ですが、今回の評価方法についての指摘事項、次回評価委員会を設置する際の申し送り事項等々、今回の委員会から何かご意見等をいただければと思います。評価の方法ですが、協議会の方からも今回、例えば自己点検・評価表の質問項目が難しい、役員がかわるとその表もなかなかつけられないというようなお話もありました。今回は事務局としてヒアリングにも行っています。また利用者のアンケートですが、コミセンを利用していない方からの意見を酌み取ることができないというのは、今回の委員会からお話がありましたし、先ほどごらんいただいた個表の中でも協議会の方が悩みとして抱えていることです。コミセンをなぜ利用しないか、関心はあるけれど利用しないのか、もともと関心がないのかというのは、これからのコミュニティ

を考えていく上ですごく重要なポイントだと思いますので、利用者アンケートについても何かご指摘等々いただければと思いますし、評価の Spann につきましても、指定管理に合わせて5年なのか、もしくはもっとシステムチックにして1年単位で評価をしていくかなどについても、ご意見をいただきたいと思います。

あとは参考資料です。

【委員長】 ありがとうございます。という案ですけれども、当然この個表がある種中心的な位置に来るということは変わらないと思いますが、その前後、どう話をつなげるか、報告書としてのストーリーをどういうふうにつけるかということ、もうちょっと議論してみましよう。

最初からこれでいいですかというのも変なんですけど、何か副委員長が提案をしてくださりそうな気配を感じているんですけど、いかがですか。

【副委員長】 委員長がまとめてくださるので、ある意味では気楽にアイデアを申し上げるという格好で言うと、まず質問として、以前の報告書はこういう体裁で、大体それを踏襲しているんですか。

【事務局】 最初のところの順序は逆ですが、個表とか総評とか、各コミセンの課題ということでメインは入っています。

【副委員長】 この構成自体は悪くないんですけども、雑談っぽく言い切ることになりますけれど、私が普段見ている自然科学系の研究論文とかレポートとか、実験レポートの形式と非常に似ています。委員長や私みたいに文系の研究者が書くと、こういう報告書の構成にならなくて、これはこれできちんとしていいんですけども、これで果たして評価できるかなという不安があるんです。別にこれを変えてほしいというわけではないんですが、例えばこういう4つの柱を立ててやる場合、少し表記の仕方とか位置づけを変えたほうがいいのではないかなと思います。

「はじめに」のところはおそらくかがみに当たる部分なので、行政的にもこういう委員会をつくってこういうふうに進めましたということは、諮問との関係もあるので書かなければいけない。これは扉として必要だと思うんです。フェースシートみたいなものですよ。

次は評価方法いきなり入るのではなくて、これは多分、評価の視点みたいな話なんですよ。そもそも今回の評価は一体何を目的としてやるものなのか、指定管理なのかコミュニティづくりなのかといろいろ議論がありましたよね。その中で、やはり普通の指定管理事業者を評価するのとは違った視点で評価する必要があるという議論があるわけで、だからこの2の1)の評価の視点と基準に当たる部分がもう少し膨らまないと、多分先の評価そのものの中身に入れないうらうと思うんです。だから、この2番のところと

ても書き方としては大事だろうと。

その中で、ここでも議論しなければいけないと思うんですけど、先ほどからの皆さんのお話を聞いていて思ったのは、コミュニティセンターあるいはコミュニティ協議会というシステムは、しっかりと武蔵野の地域づくりの中に定着したと見たほうが良いと思うんです。これが失敗とか成功とかいう単純な話ではなくて、もう完全に根づいていると。その上で、これからいろいろな自治体の将来を想定したときに、このままでいかどうかという課題がある。つまりもう一步踏み込んだコミュニティづくりやコミセン、コミュニティ協議会のあり方ということを探索しなければいけなくて、その視点で評価を改めて今回はするんだと。そういう話になったほうが良いと思うんです。それが多分この2番、そうするとやはり「評価の方法」みたいな機械的な書き方ではなくて、もう少し工夫が必要だろうと。

評価の結果というのはまさに、今回の個表も含めてですけども、せっかく出させていただいているので、一つ一つのコミュニティ協議会の自己評価を前面に出したほうが良いと思います。その上で、この評価委員会が一つ一つのコミュニティ協議会の自己評価について、ある課題や、改善点を指摘するという事は悪くない。ただ、そこで終わるのではなくて、その課題解決の見通しがあるかどうかということについて、どう支援すべきか、追加支援が必要なのかということとあわせて、個別にやっていかなければいけない。

例を挙げたほうが良いと思うんですけど、全体的にどこも高齢化の問題が出ていて、若い人をもっと担い手に入れたいと言うけれど、多分今の状況だと個別に努力してもうまくいかないでしょう。そもそもコミュニティセンターは若い人が来るような場所なのかという問題もありますので。そうでないところももちろんありますけれど。そうすると、やはりそのところは個別に努力しなさいというのではなくて、行政としてもそういう課題が解決できるような支援を新しくしなければいけなくなりますよね。全く思いつきの申しわけないんですけども、若い人が来るということで例えば一番来そうなのは、子育て中の世代で、そうすると子育て関係の事業や何かがそこで行われていけば、講座とは別で事業が行われていけば、そこに入出入りするようになるはずですよ。今まで別のところでやっていたものを意識的にコミュニティセンターに振り分けてやってもらうようにすれば、きっかけにはなりますよね。そういうような、今のがいかどうかは別ですけど、もう少し踏み込んだ支援の仕方をあわせて課題の中から提案していくというのが、多分この評価の結果に当たる。だから「評価結果」という言い方も少し工夫しなければいけないと思うんですけど。自己評価に基づいた個別の評価は必要だけれども、それを受けた課題解決の見通しについて、きちんとこの評価委

員会が提案していくことが必要だと。

そして最後の4番目も少し言い回しが違うなと思ったのは、これは簡単に言うとまとめなんですよね、委員長が何度も言っているように。だから指定管理者制度のあり方も含めて全体的に、個々のコミセンということではなくて全体的にこの評価のやり方や支援の仕方をどうすればいいのか、そういう視点で最後の4番のまとめを書いていく。

そういうふうの流れをつくっていけば、この枠組みを利用しながらうまいまとめができるのではないかなという印象は持っています。申しわけないけれどこのタイトルだけ全部変えて、「はじめに」とか「評価方法」「評価結果」、4番目の、タイトルだけ少し見直しをして、今言ったような中身に合わせてつけ直せばいいのではないかなという気がしました。

【A委員】 一つ思うんですけど、わりとこういう報告書ってかた苦しいですよ。趣旨とかも全部読まないで中身がわからない。そうではなくて、見出しは内容をほうふつとさせるようなものにしたほうがいいと思うんです。全部読まないでわからないのでは、面倒くさいから読まないんです。

【副委員長】 我々もよく経験するんですけど、そういう場合は後ろだけ読むんです。だから最後が一番大事で、ここがいかにか生き生きと書かれているかということが、やっぱり大事だと。

【委員長】 大体初めと最後ですよ、読むのは。

【副委員長】 「はじめに」は、大体行政の報告書はあまりおもしろくない。

(3) 意見交換

【D委員】 私もコミュニティ側として、どこまで意見を言うか、非常に難しいというか、わかっているというか。それぞれのところが、E委員も言っていましたけれど自主的にいろいろやってきていて、副委員長が言われたように、ある程度コミュニティの活動を、各協議会がよかれと思って工夫をして行い、定着化してきている。ただそこに、もう一步踏み出せない困った点などが出てきて、どうしたらいいかというのはどこもあると思うんです。

評価される側にとって一番欲しいのは、やはり言われたように課題に対しての何かいい方法、ちょっとしたアドバイス、こういう考え方もあるみたいなことがあると、さらに次のことにトライするものも出てくると思います。

だから評価は、皆さんが出されたのがそのまま載ってもいいですけども、それに対してどういうことをするともっとよくなるという、どうしたら必ずよくなるのかではなくて、4番の、協議会が活動の中で認識している課題については何か欲しいと思います。どういう形で今その意見を出しているの

かは、視点というか考え方によるんですけれど、その辺はあります。

【委員長】 これまでいろいろ事務局を中心に行ったものが、16枚の紙になって出てきました。それはそれでいいわけですか。つまり各協議会の16個の評価があります。その全体を通して、結局何ができてきたのかということを書いておかないと、これを評価した意味がないということになる。ずっと副委員長がご指摘くださっていたことは、そういうことですよ。

こうやってみんな集まっているので、全体としてできてきたことに対して、解決策なり何なりの提言をしていく。そこまで踏み込んでおけば、これから先、まさに定着したコミュニティに関するさまざまな制度に対して、何かインパクト、評価委員会も役に立ったことになるだろうと、そういうことなんです。

【D委員】 さらにもっと、元気が出るものが欲しい。研連でもこれから話されていく、第六期コミュニティ市民委員会からも話がありましたけれども、要するに一步出て、地域団体とのつながりなども、コミセンの中だけでなくコミセン以外の他団体とのそういうつながりによって、もっとコミュニティ協議会の活動が広がりを見せる。そこでどういうものをつなげたときにどういうものができるかというのは、いろいろあると思いますけれど、それは決めるべきではないかもしれませんが、何かそういうことができる、いい面があるというのがわかるような、決めつけるものというよりはそういうものが見えてくると、ちょっとおもしろいかなと思います。

【E委員】 質問ですけど、自分のところのことは自分たちがわかるけれど、残りの15があるわけです。こういう評価表を、ある限られたメンバーでもいいんですけど、皆さんと一緒に見るとか読むとかはあるんですか。例えば前回の第二期の報告書がありますよね。要するに、自分のところ以外にも参考にされているかという質問です。

【D委員】 全員で読み合っているとところもあるかもしれません。

【E委員】 そのうちの何人かの方でもいいんですけど、例えば中心の方たちが、「あ、よそはこうしているんだ」というようなことを参考にしているのかなと。こういうものを出しても、結局一般市民の人がそんなにたくさん読むかなと。前の委員会でもそんなことを言ったと思うんですけど、これにかかわっている人たちが目を通すのが多いはずなんです。では、必ずしもそうなっているのかなというのが。せっかくこれだけ皆さん書かれていますので、もっとよそのやつをコミセンとか協議会の方も参考にされたらどうかなと思います。

総評のところは、むしろいいところを書いてもいいかなと。コミセンのいいところ、すばらしいところを書いて、それをほかの方たちが見ると、参考

になるかなど。問題点ばかり書いたら、多分みんな抱えている問題は一緒に、やっぱりよそもそうなんだな、うちもこの程度はしようがないなという、後ろ向きな発想になりかねないので。

【D委員】 すばらしいところ、いいところというのは、なぜそこがよくなっているかを考えます。

【E委員】 要するにほかのコミセンも気にかけてほしいなど、自分たちだけではなくて、そういう思いがあるんです。それは必要ではないかと、これを見ていてそう思っています。

それぞれが、なかなか工夫されているんです。小さい、大きい、中ぐらいと建物などいろいろな制約の中で工夫されているのは、読めばわかります。そういうのはほかのところも参考にしたらどうかなと感じます。

【C委員】 私もこれをいただいて、全部読んでみたり個表のほうを見たりして、今おっしゃったように感じました。

この評価表の中で特に今問題になっている、新のほうの「④運営委員・協力委員は十分な人数が確保されていますか」という項目がありますよね。その項目をAとしているところがあるんです、二、三カ所ぐらい。Aの十分である、一番いい評価のAを出しているということは、どういうふうに行っているのかということを知りたいと感じました。ほかの項目でも、Aを出しているところ、どういう努力があってAになっているのかというのを聞くほうが、マイナスではなくてプラスの方向に向かっていく、そういうことがみんな知りたいのではないかなと思うんですが、今おっしゃったようにあまり読んでないのは確かだと思います。だから評価委員会のほうからそういうことを出していただけると、いい気がします。

【委員長】 総評は、今こんなふうに行われていますけれど、このぐらいの大きさの中でやるのか、そうでないのかはあれですけど、仮にこのぐらいの枠で用意されているとすると、多分さっきA委員がおっしゃった見出し的な役割というのは、結構これが果たすでしょう。そこだけ見て、「おお、ここはこうか。」みたいにさっさと読んでいく人は多分たくさんいると思うので、この総評の中身は結構大事ですよ。やはり元気が出るような、よそがどんなことをやっているか、そのコミセンの特徴みたいなものが出るようにしていくほうがいいでしょう。全体的にこういう問題が指摘される、それについてはこんなふうに行ってみたら、皆さんどうですかというようなことが、皆さんというのは行政も含めてですけど。

イメージとしてそんなようなものになると、コミセンの方々は時々どきっとしたり、でもうれしかったり、そんな感じで読んでいただける。市民の方で読んでくださる方がいるとすると、コミセンも頑張っているではないか

らいは思っていたが、場合によっては、ちょっとのぞいてみるか、そういう気持ちになってもらえるようなものになればいいし。行政は行政で、これはいろいろ覚悟しなければいけないぞという思いになるような。そんな気持ちが全体で共有できるようなものになれば理想的なのかなと、きょうのいろいろなお話から感じています。

さて、そういうものに、だれがしていくのかという大問題があります。委員会全体でやっていくわけですが。

今後、実はもう次の日程も決まっているんだけど、どういうふうやっていくつもりだったか、場合によってはちょっとそれを修正しなければいけないかなと思っているんですが。

次は6月27日を予定されていますよね。事務局としては、この先どういうふうに進めるつもりか、ご説明いただいてもいいですか。

【事務局】 あくまでも腹づもりでしたが、今回この個表についてどこまでできるかは別にして、総評のところを各委員さんから、ここはこういう感じというようなことをお出しいただければ、それを列挙して行って、次回でそれは全部できるだろうと。それと、この間議論されている評価の方法、評価の軸、あるいは個別の協議会の評価をした結果として、全体に見えてくる課題とかについて、評価委員会としてはこう考えていますということが、ある程度は明確になってくると思います。そうすると先ほどご提示しました構成案の中に埋め込んでいくことが、それなりにはできるのではないかと考えていました。そこまで皆さんにご確認いただければ、あとは委員長、副委員長とご相談させていただいて、取りまとめができればと思っています。

ただ、きょうこの場で、それぞれの個表を埋めるということはかなり難しいだろうと思っています。これは事務局からの提案ですが、例えばこれまでお示ししているすべての各協議会に関する資料、この個表もごらんいただいた上で、各委員からご意見を事務局にお送りいただければ、それを全部書き出すことは可能だと思います。それを整理する感じで、いいものにできるかどうかは皆さんのセンスにもかかってくると思いますが、そういったものが出てきていけば、それを全部載せて、皆さんで取捨選択をしていただくような格好ができればいいのかなと思っています。

【委員長】 そうすると次回の委員会は、個表の今あいているところを埋めるというのが目標。

【事務局】 事前に埋めるように入れていただいておりますので、皆さんにごらんいただくと。そこで整理をしていただくということと、先ほどお話いただいていた部分、全体の課題として浮かび上がってきたことについて、どう評価委員会としてサジェスチョンするのかということ。

【委員長】 わかりました。そうしたら、その事務局の心づもりとそんなに離れてもいけないと思うので、提案をしてもいいですか。

総評のところを埋めていくというやり方については、先ほどの事務局の提案のようなやり方でやっていきましょう。ただ、次回絞った後、表現の仕方みたいなことを少し調整することは、やはり必要だと思います。言葉遣いとか全部ばらばらというのも変なので、調整をしたいと思います。皆さんから、それぞれの協議会の売りは何かみたいなことで総評をつくっていくということはやっていきます。

それで今回はそれを埋め、かつ全体的な課題として何が見えるのかということ、これをきょうお持ち帰りいただいてさらに読み込んだ上で、出してください。今回はそこまでですね。

そしてその後、まとめの部分、つまり全体的な課題、皆さんが出していただいたものをどうまとめるか、それに対して行政の支援の仕方、市民同士の努力の仕方みたいなものもあるかと思っています。例えば研連がどんなふうを考えていくか、やっていくかとかもあると思うので、多分いろいろな支援の形があると思っていますので、そんなことも含めた原案をつくらせてもらえませんか。だから少し期間が必要ですが、次回は6月末だとすると、最低でも1カ月ぐらい欲しいので、多分暑い盛りになりますが、それぐらいまでに全体として何が言えるのかということ、それをまとめ、それに対する支援策みたいなことをまとめて、それを提案して、もう一遍もんでいただくという手順でどうでしょうか。

これ、いつまでという期限はあるんですか。

【事務局】 市長に報告をした上で、それを公表するという事になっていきますので、最初に公表するとすれば議会に対してということが必要だろうと思います。議会の委員会がある月は限られており、当初は8月18日の総務委員会までにできればと思っていました。

6月27日にできて、1カ月ぐらい委員長、副委員長に汗をかいていたいたら、そのぐらいにはできるのかなという腹算用はしていましたが、それが無理となれば9月だと思います。

それともう一つお願いしたいのは、先ほど副委員長から全体の構成のところでお話がありましたので、副委員長にその構成案みたいなものをお作りいただければ、ラフなものでも結構ですので、みんなで共有しやすいのかなという気はしています。先ほどのことがそのまま、私たちのほうでそしゃくし切れないような気もします。

【副委員長】 委員長が汗をかかなければいけないのなら、副委員長も汗をかかなければいけないと思います。

その代わりといったらあれなんですけれど、この武蔵野市の評価委員会の報告書のつくり方、今までのつくり方の段取りというか、よくわからないんですが、要するに、機械的に事務局がある程度文書化できる場所がありますよね。例えば今のこの構成でいうと、「はじめに」の部分は、タイトルはちょっと変えたほうが良いと思うんですが、機械的に書けますね。それからおそらく、中身はちょっとわからないんだけど2番の評価方法の2) 評価の構成に当たる部分も、機械的に書けますよね。それから3の評価結果の2) 個表も機械的にできますよね。だから私のほうでタイトルとか構成の見直しといっても、実態はほとんど変わらないんです。出す代わりにというか、事務局のほうで文書化できる部分は、ここのところは書いてくださいとやるので、準備をしていただいて。あと、例えば2番の評価方法の頭に当たる1) 評価の視点とか、評価結果の総括の部分ですね、そして最後の4番の部分とか、これはある程度メモでいいので、委員長にたたき台みたいなものを出していただいて、それについて委員の皆さんから、ここでコンセンサスをつくって出して文書化する。

そういう流れでよければ、私のほうで構成案をもう一回考え直して出すことはできるんですけれど、そういう見方でいいですか。

ボリュームでいうともう3分の2ぐらいできているなという感じはあるんですけど。

【委員長】 これをつくっていただいたのは大きいことです。大変だったと思います。あとはこれをどう、前後のものをつけるかという話だと。

そうすると次回は6月27日にやって、それであとプラス1回では終わらないかな。だから9月かな。

【A委員】 この個表ですけど、ところどころあいまいというか具体的にないので、内容がわからないところがあるので、それは直したほうが良いと思います。例えば吉祥寺南町コミュニティ協議会の認識している課題のところ「市外利用者の対応に苦慮している」というのは、一体何に苦慮しているのかとか、そういうのは多分たくさんあると思います。そういうものをもう少し具体的にしたほうがよいと思います。

【E委員】 これには詳しく載っているんだっけ。例えば今の話。こっちはもともとのヒアリングの原文、で、これは抜粋。

【A委員】 でもこれを報告書の中に入れるんですよね。そうしたらやはり具体的に書かないと。

【E委員】 今の事務局の話では、要するにこの個表についての総評のところの、各委員のコメントをまずくださいということですよ。それはいつごろまでと考えて。

【事務局】 事務局が約束を守らないで締め切りをつくるのは大変恐縮ですが、今回はその場でお渡ししたもので大丈夫だと思いますので、少なくとも6月27日の1週間前ぐらいまでにいただければ大丈夫かと。来週の金曜日が6月17日ですので、週をあけるともう6月20日になってしまうぐらいですよね。6月20日月曜日から次の委員会が6月27日の月曜日になっていますので、6月20日ぐらいまでにいただけると。

【委員長】 16個もやらないといけないからね。

【A委員】 どれぐらいのボリュームで書くんでしょう。

【事務局】 皆さんが感じられたものを箇条書きでいいのではないかなと思っています。それを並べていって、委員長がこういうふうなことを言われているというのを書き込んでおけば、その中で整理していくということではないのかなと思います。

【委員長】 原則1行ぐらいですね。

【事務局】 そのぐらいでいただけるとありがたいです。

【副委員長】 コミュニティ協議会ごとに書くんですよ。ということは、この欄をめどにすればいいわけですね。

【事務局】 そういうことです。そこに皆さんが1行ずつ書いていただいたものがトータルされると、同じことを書かれることもあるでしょうし、全く違う視点なども出てきたりすると、それが結構アピール力があるのかなという気がいたします。

【委員長】 わかりました。そうしたら次回までの宿題はそういうことで、繰り返しませんけれども、6月20日までをお願いします。「吉祥寺東、これこれ」という感じで書いたものをメールでお送りするということがいいですね。

3 その他

【委員長】 次回は6月27日です。そこから先が、きょうここが始まるまではあと1回ぐらいでいいかなということでしたが、ちょっと1回では終わらないかなと。

【事務局】 7月22日の夜でだめなのは今のところC委員だけでしょうか。もしそれでほかの委員さんがよろしければ、この辺で入れさせていただけるとすごくありがたいなという気がします。よろしいでしょうか。

【委員長】 C委員に申しわけないけれども、事前に資料をお送りすることになると思うので、ぜひそれにはご意見を言っていただくということで、この日に開催することでもいいですか。

【C委員】 はい。

【事務局】 7月22日の金曜日の夜。18時でよろしいですか。

【委員長】 はい。そこまでやれば、それが最後にできるかな。

皆さんのおかげで大分方向が見えてきたかなという気がします。あとちょっと産みの苦しみがもうしばらくあるかもしれませんが、ご協力いただければと思います。宿題がありご苦勞をおかけしますが、よろしくお願ひします。

【事務局】 先ほどA委員から、ここはちょっとわからないというようなご指摘がありましたが、それも書いていただけるとすごくありがたいなと思います。6月20日までに入れておいていただけると。

【副委員長】 字句修正だからその場でもいいんじゃないですか。

【事務局】 その場でも結構です。

【委員長】 これに直接赤を入れていただいて、それで次回渡していただくみたいな形でもいいかもしれません。

4 閉会

【委員長】 ほぼ時間どおり、2時間の予定で終わりそうです。皆さんよろしいでしょうか。今度は6月27日にまたお目にかかりたいと思いますので、宿題をよろしくお願ひいたします。私も忘れないようにやります。

【事務局】 6月27日10時、8階の会議室でお待ちしています。

— 了 —